

JYMA 総会

2004年02月21日(土) 18:20~20:45

横浜県民会館 15階 1501会議室にて

印 = 議決事項

出席者： 戸谷、今津、鷺尾、太田、長堀、
佐野、伊藝、原、川崎、船澤、作道、小林
12名 がスキッパー会員

委任状：東島、二宮、中野、山下、稲葉、吉岡、浜崎、和田、白山
9名すべてスキッパー会員

1) 総会の成立

スキッパー会員総数16名。出席5 委任状9 = 14名
スキッパー会員総数の1/3以上なので総会は成立する。

2) JYMA理事の選任

佐野、東島の2理事が辞任。

長堀信一、伊藝徳雄、原健氏の3名を新任する。

< 2004年度 理事 >

名誉会長 小田切

会長 戸谷

副会長 一木

理事 影山、今津、川崎、長堀、原、伊藝

3) JYMA公式イベント

4月10日(土)~11日(日)

スプリングマッチ

葉山

8月22日(日)

全日本女子マッチ

葉山

8月28日(土)～29日(日)	南波誠メモリアル	西宮
10月9日(土)～11日(祝)	全日本マッチ	葉山
12月25日(土)～26日(日)	クリスマスマッチ	葉山

全日本ユースマッチについては、日程、開催場所ともにペンディング。

以上の日程が決定。

なお、上記日程は、ニッポンカップが11月15日(月)～21日(日)に開催されることを前提として決定。ニッポンカップの日程が異なる場合には、日程変更があり得る。また、南波誠メモリアルについては、上記日程で関西マッチレース委員会に申し入れる。

4) 参加総数、申し込み受付、シード数について

意見) 休眠選手や新たにマッチの世界に入ってくる選手にとって、ランキング順の申し込み受けは厳しい障壁になる。先着順の受け枠を設けて欲しい。

- ・ JYMAとしては、NSTという下位グループを作る等、工夫を凝らしている。
 - ・ また、クリスマスマッチでは門戸を広げる意味合いで、先着順を原則としている。
 - ・ 優秀な選手の門戸を閉ざさないような配慮として、会長推薦枠を設けている。
- = 休眠選手、新たにマッチに入ってくる優秀選手は、会長に対して自己アピールすべし。

スプリングマッチについては、年初の公式戦ということもあり、ランキング順6、会長推薦枠2に加えて、先着順枠2を設けることにする。

南波誠メモリアルは、ランキング順6、関西枠3、NST枠2、会長推薦枠1

全日本マッチは、ランキング順7、関西枠1、NST枠1、会長推薦枠1

クリスマスマッチは、ランキング順4、先着順枠8

= クリスマスマッチ以外の葉山開催マッチは、総参加チーム数は10。

西宮開催マッチは、12とする。

= 会長推薦枠の存在と自己アピールについて、きちんと広報する努力をすること!

5) 関西マツチレース委員会の現状

第一回目の委員会を行った旨、今津より説明。

南波誠メモリアルの開催時期、ユースマッチの受け入れの可否等を説明。

6) 全日本女子マツチについて

作道郁子(2004年度、女子部長)より、日程と葉山開催になった経緯を説明。

ウェイトは360キロ。人数は問わない。

7) 全日本ユースマツチについて

長堀信一より、日程について説明。

11月27日(土)~28日(日)に葉山で開催するか、12月18日(土)~19日(日)の予定で西宮開催を依頼するか検討する。

学生と長堀氏の間で連絡を取り合い、学生側の都合を考慮して、後日、結論を出す。

8) 会計報告

川崎理事より、会計報告。=会計報告書は、別紙参照。

意見)パーティ費用等、節約しよう。

パーティでは、例えば儲けるくらいのこと考えるべき。

9) 会員制度

・ ワンタイム会員制度を再度設けるか?

= 例えば、関西の選手は、西宮開催一回のために多額の会費を納めねばならない。

JYMAは、関東地区の組織ではなく、全国組織である。関西だと言うことで差別、区別する類の話ではない。因みに、今でも関西から上京して参加する選手はいる。ワンタイム会員は、設けない。

- ・ コース会員の 신설

若い選手を育成するためにも、コースの門戸は広くすべきである。今の会費は学生やコースにとって高額であり、理念に背く。

コース会員制度を新設する。

コース会員の定義は、20才未満もしくは学生とし、スキッパー会員、クルー会員の種別もない。年会費を1000円とする。

ただし、コース会員は「JYMAのイベントに際して、積極的に協力することが要求される。」

10) 会計年度の変更

2004年度より、会計年度、事業年度ともに、1月から12月とする。

それに伴い、JYMA総会開催時期は、「9月1日から3月末までに行うこととする。」

11) 全日本マッチの乗員規定(クルーリミット)

意見) 葉山開催のマッチ(スプリングマッチ、クリスマスマッチ)の乗員規定は、360キロ、人数制限なしだが、全日本マッチにおいては、ニッポンカップ予選の色合いも濃いこともあり、ニッポンカップに合わせた360キロ4人にすべきではないか。

とは言え、全日本マッチを通常の公式戦の最高峰のレースとして位置づけるのであれば、他の公式戦と乗員規定を変えるのは、理に叶わないのではないか。

全日本マッチの乗員規定は、360キロのウェイトのみの縛りとする。

但し、ニッポンカップの出場権は、ニッポンカップと同じ乗員規定で参加したチームに対してのみ与えることとする(現状では4人 360キロ)。

= ニッポンカップと同じ乗員規定を満たしたチームの最上位にニッポンカップの出場権を与える。

なお、JYMAから葉山マリーナに対して、「日本代表選手のウェイト面での不利を少しでも解消するために、ニッポンカップの乗員規定を5人に変えることができないか。」ISAFへの打診も含めて、申し入れをする。

12) その他

毎回、公式イベント（レース）の実施要項の公示が遅すぎる。
通常のイベントであれば、遅くとも2ヶ月前、全日本であれば、半年前には公示すべき。

実施要項の公示のタイミングをJYMAから会員に対して、約束すること。
スプリングマッチについては、可及的速やかに実施要項を公示すること。